

令和4年度児童生徒の問題行動・不登校など生徒指導上の諸課題に関する調査結果 ～ 本県の公立学校の状況について ～

1 不登校について

	小学校	中学校	高等学校
令和4年度	654人	1,164人	576人
1000人当たりの 不登校児童生徒数	15.3人	55.3人	31.7人
増減（令和3年度比）	+67人	+157人	+84人

○不登校児童生徒数が、すべての校種で増加

新型コロナウイルス感染症対策に伴う生活様式が続く中で、生活リズムが乱れやすい状況や、学校生活において様々な制限があり、交友関係を築くことなどが難しかったり、登校する意欲が湧きにくい状況にあったりしたこと、また不登校への理解が広がりつつあることなども背景として考えられる。

主たる要因

すべての校種においてもっとも多かったもの

「無気力、不安」

続けて多かったもの

小学校 「親子の関わり方」、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」

中学校 「いじめを除く友人関係をめぐる問題」、「生活リズムの乱れ、遊び、非行」

高等学校 「生活リズムの乱れ、遊び、非行」、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」

○不登校に対する主たる取組

- ・累計5日以上欠席した児童生徒の個人状況・学校対応状況シート」の活用
- ・「不登校対応の手引き」及び「不登校対応基本マニュアル」の活用を徹底
- ・不登校に特化した管理職対象研修の開催
- ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の配置と研修の充実
- ・別室登校の児童生徒への支援として、県内小中学校に不登校児童生徒支援員を配置
- ・訪問支援員の配置によるICTを活用した学習支援

2 いじめについて

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
令和4年度	4,988件	414件	57件	62件
1000人当たりの認知件数	117.1件	19.7件	2.9件	39.8件
増減（令和3年度比）	-209件	+91件	-9件	+44件

○いじめ認知件数が、中学校、特別支援学校で増加

新型コロナウイルス感染症の影響が続き、感染を予防しながらの生活となったが、部活動や学校行事等の様々な活動が、徐々に再開されたことにより接触の機会が増加したことや、いじめの積極的な認知への理解が広がったことにより、認知件数が増加したと考えられる。

主たる要因

すべての校種においてもっとも多かったもの

「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」

続いて多かったもの

小学校 「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり蹴られたりする」、
「仲間はずれ、集団による無視をされる」

中学校 「パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる」、
「仲間はずれ、集団による無視をされる」

高等学校	「ひどくぶつかられたりたたかれたり、蹴られたりする」、 「パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる」
特別支援学校	「嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする」、 「その他」

〇いじめに対する主たる取組

- ・「いじめ問題対応マニュアル」の活用といじめの認知の徹底、解消に向けた組織的な対応
- ・いじめアンケートの徹底（公立学校の実施率 100%）
- ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー配置と研修の充実
- ・タスクフォース等の支援と「チーム学校」の組織力の向上
- ・安全・安心な魅力ある学級づくりの研究及び道徳教育の充実
- ・SNS等を活用した相談窓口での対応、ネットトラブルに係る取組

3 中途退学者数について

	高等学校	全日制	定時制	通信制
令和4年度	238人	153人	41人	44人
中途退学率	1.2%	0.9%	7.1%	3.4%
増減（令和3年度比）	-22人	-24人	+6人	-4人

〇中途退学者は、全日制で減少

主たる要因

- 全日制 「学校生活・学業不適合」、「進路変更（別の高校への入学を希望）」
- 定時制 「進路変更（その他）」、「学校生活・学業不適合」
- 通信制 「進路変更（その他）」、「進路変更（就職を希望）」

4 暴力行為について

	小学校	中学校	高等学校
令和4年度	95件	225件	33件
1000人当たりの発生件数	2.2件	10.7件	1.7件
増減（令和3年度比）	-10件	+42件	-6件

〇暴力行為の発生件数は、中学校で増加

新型コロナウイルス感染症の影響から、ストレスを抱える児童生徒が増えたことや、学校活動が徐々に再開されたことにより接触の機会が、増加したことも要因の一因と考えられる。

主な暴力行為の内容

すべての校種において「器物破損」、「生徒間暴力」が多い

5 今後の取組

- ・各種マニュアルを活用し、教職員が共通理解のもと、未然防止・早期対応が取り組めるよう、管理職やSC等の専門職を対象とした研修の充実を図る
- ・対応困難な事案に対しタスクフォース等による支援と、チーム学校の組織力の向上を図る
- ・いじめの本質的な解消や未然防止に向けて「安全安心な魅力ある学級づくりの研究」の拡充を図る
- ・一人一台端末を活用した児童生徒の健康状態等の把握など、個々に応じた指導・支援の充実を図る
- ・不登校に係るワーキングチームの議論を踏まえ、より効果的な不登校対策について検討する